

第4学年 国語科学習指導案

指導者 湊屋 幸
 澤田 香織
 高場 康美

1 **単元名** 事実にもとづいて書かれた本を紹介しよう
 教材名 ランドセルは海をこえて

2 単元の目標

- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

3 単元の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	・進んで幅広く読書に親しみ、学習の見通しをもっている。 ・ノンフィクションを読み、その本をポップで紹介しようとしている。

4 単元指導計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	授業改善のポイント
1	1・本時	○単元のめあてを確認する。 ○いくつかのポップを比較し、書かれていることを読み取る。 ○学習の見通しをもつ。	
	2	○学習計画を立てる。	
2	3	○「ランドセルは海をこえて」を読み、おおまかな内容を捉える。 ○一番心に残ったところや、感じたことや考えたことをノートにまとめる。	
	4	○「ランドセルは海をこえて」のポップ作りをする。 ○完成したポップをもとに、一人一人のポップに書かれていることや、工夫に気付く。	
3	5	○自分が読んだノンフィクションの本を紹介するポップを作る。	
	6	○できたポップを紹介し合い、友達と感想を交流する。	

1 / 6 時間目

本時の
目 標

・ポップ作りに興味・関心
をもち、ポップについて
考えることができる。

本時の
評 価

・ポップ作りに興味・関心
をもちポップについて考
えている。

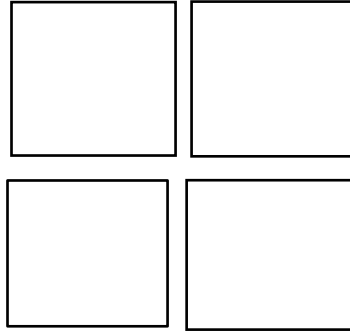
ふり
返り

・出版社名
・本のかんたんなしょうかい
・引用
・感想
・キャッチコピー
・イラスト
・本の内ように関係のある紙の形
・色
↓
くふう

・題名
・作者・筆者名
↓
必ず書かれている

ポップには…

ICT



- ・ 昨年の学校図書館の様子をけいじする。
- ・ 4枚のポップを順次けいじする。

○ポップについて考えよう。

友達、家族、学校のみんなが
「読んでみたい」と思ってくれるような

【単元のめあて】

事実にもとづいて書かれた本をしようかいしよう

- ★今まで読んだことのある本のジャンル
- ・ファンタジー
- ・科学読み物
- ・図かん
- ・ノンフィクション
- ・フィクション

授業改善のポイント



興味や関心を高める

今までの読書経験を想起させ、ノンフィクションについて理解させる。また、ポップを提示し、どのようなことが書かれているか、児童に気付かせる。



互いの考えを比較する

よいポップについて一人一人に考えさせる時間を確保する。さらにグループで話し合う時間を設け、よいポップについての考えをまとめさせる。

①つかむ

- 今までの読書経験を思い出す。ICT
- ・様々なジャンルを想起させ、事実にもとづいて書かれた本をノンフィクションということを押さえる。
- 単元のめあてを知る。
- ・誰に紹介するか、目的意識をもたせる。
- 紹介する方法を考える。
- ・図書館の様子や、昨年度に作成したポップを見ることで、ポップ作り興味を持たせる。

②考える

- ポップについて考え、気がついたことをまとめる。ICT
- ・書かれている内容が違う複数のポップを用意し、児童が手元のタブレット端末で見ることができるようにする。
- ・ポップを見比べて、どのようなことを書くとよいか自分の考えをノートにまとめさせる。
- ・色や形だけにとらわれず、書かれている内容に注目するように声をかける。

③学び合う

- ポップについて考えたことを伝え合う。ICT
- ・ノートに書いた自分の意見をもとに、タブレット端末を指し示しながら、ペアで話し合う。

④まとめる

- 全体的話し合いで出た意見をまとめる。
- ・児童から出た意見を短冊に書き、まとめる。
- ・本の題名や作者など必ず書くことをおさえる。
- ・自分の紹介したい内容に合わせて、引用やキャッチコピー、あらすじ等を組み合わせさせて書くことを伝える。

⑤振り返る

- 本時の学習を振り返る。
- ・めあてにそって、自分の言葉で振り返りをさせる。
- 次時の活動を知る。
- ・次時は、単元の学習計画を立てることを伝える。

2 / 6 時間目

本時の
目 標

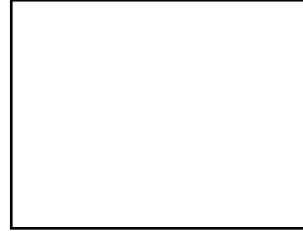
・単元のめあてを確認し、
学習の見通しをもつこと
ができる。

本時の
評 価

・単元のめあてを確認し、
学習の見通しをもってい
る。

ふり
返り

ICT



・教科書の写真をけいじする。

ランドセルは海をこえて

- ① 単元のめあてを知り、学習計画を立てる
- ② 「ランドセルは海をこえて」を読み、ポップの作り方を学ぶ。
- ③ 作ったポップを見合う。
- ④ 自分がしようかいいしたい本のポップを作る。
- ⑤ できたポップをしようかいいしあう交流をする。

紹介したい本を読む。

《学習計画》

事実にもとづいて書かれた本をしようかいいしよう
めあて
学習計画を立てよう

授業改善のポイント



見通しをもって粘り強
く取り組む

一人一人が学習計画を立て、それをもとにして全体で整理することを通して、ノンフィクションを読み、紹介し合う見通しをもたせる。

①つかむ

②考える

③学び合う

④まとめる

⑤振り返る

○本時の学習のめあてを知る。
・学習計画を立てることを知らせる。

○学習計画を立てる。
・単元のめあてを達成するために、何をすべきか自分なりに考え、ノートに箇条書きで書かせる。

○全体で話し合いながら学習計画をまとめる。
・発表したことを整理し、児童に学習の見通しをもたせる。
・ノンフィクションの本を読んでおくことを伝える。

○学習計画をもとに、「ランドセルは海をこえて」の範読を聞く。
・読む前に写真を提示し、話の内容を想像させる。
・おおまかな内容を捉えられるようにする。

○本時の学習を振り返る。
・めあてにそって、自分の言葉で振り返りをさせる。
○次時の活動を知る。
・次時は「ランドセルは海をこえて」を読み、感想を書くことを伝える。

3 / 6 時間目

本時の
目 標

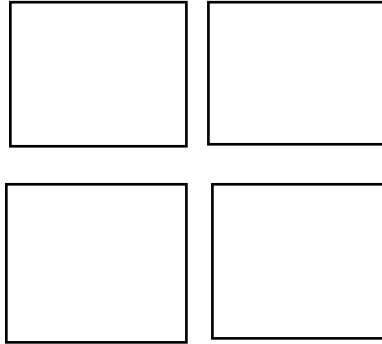
- ・おおまかな内容を捉え、心に残ったことや感じたことを自分の言葉でまとめることができる。

本時の
評 価

- ・おおまかな内容を捉え、心に残ったことや感じたことを自分の言葉でまとめている。

ふり
返り

ICT



- ・一人一人の感想が見ることができるようにする。
- ・見本のポップを見せる。

- ・くを考えさせられる本です。
- ・くの様子がよく分かります。
- ・心に残った一文（引用）

【感想の書き方】

「ランドセルは海をこえて」を読み、感想をまとめよう

めあて

事実にもとづいて書かれた本をしようかいしよう

授業改善のポイント



先哲の考えを手がかりにする

視点をあらかじめ与え、「ランドセルは海をこえて」を読み、知ったことや分かったこと、心に残ったことなどに線を引き、ノートに感想を書かせる。



互いの考えを比較する

グループで感想を共有する時間を設け、全体でタブレット端末を用いて共有し、一人一人がもつ感想が違うことに気付かせる。

①つかむ

- 「ランドセルは海をわたる」の大まかな内容を確認する。
- ・どこの国の話か、文章中の「ぼく」が誰か、「ぼく」は何をしている人か、どのようなことが書かれているか確かめる。
- 本時のめあてを知る。
- ・感想を書く視点を与える。

②考える

- 「ランドセルは海をわたる」を読んだ感想を書く。
- ・十分な時間を確保し、教科書に線を引きながら、読ませる。
- ・感想は自分のノートに書かせる。

③学び合う

- 自分が書いた感想を友達と見せ合い、交流する。
- ・同じ文章を読んでいるのに感想や心に残った一文が違うことに気付かせる。

ICT

④まとめる

- 感想がポップ作りに生かせること知る。
- ・見本のポップを提示し、心に残った一文が書かれていることや考えさせられたことが書かれていたことを確認する。

⑤振り返る

- 本時の学習を振り返る。
- ・めあてにそって、自分の言葉で振り返りをさせる。
- 次時の活動を知る。
- ・次時は、感想をもとに「ランドセルは海をこえて」のポップを作ることを伝える。

4 / 6 時間目

本時の
目 標

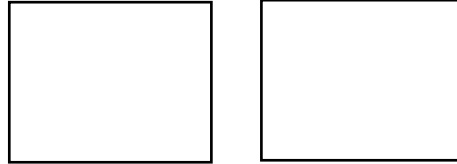
・「ランドセルは海をこえて」のポップを作り、一人一人の感じ方の違いや、ポップの工夫の違いに気付くことができる。

本時の
評 価

・「ランドセルは海をこえて」のポップを作り、一人一人の感じ方の違いや、ポップの工夫の違いに気付いている。

ふり
返り

ICT



- ・過去に作成したポップをけいじし、ポップ作成の工夫を取り入れられるようにする。
- ・「まとめる」では、児童の作成したポップをけいじし、工夫のよさを全体で共有する。

- 「ランドセルは海をこえて」のポップを作り、交流しよう
- めあて
- よいポップ十か条
- ① 題名
 - ② 作者・筆者名
 - ③ 出版ん社名
 - ④ 本のかん単なしようかい
 - ⑤ 引用
 - ⑥ 感想
 - ⑦ キャッチコピー
 - ⑧ イラスト
 - ⑨ 本の内よように関係のある紙の形
 - ⑩ 色

授業改善のポイント



自分の思いや考えを結び付け、考えを形成する

よいポップ十か条や、見本のポップを提示し、十分な時間を確保する。



互いの考えを比較する

グループで作品を見合う時間を設けたり、さらに、ICT 機器を活用したりして、よいポップを全体で共有することができるようにする。

①つかむ

- 本時のめあてを知る。
- 学級で考えた「よいポップ十か条」を振り返る。
- ・十か条の中で、必ず書くことをおさえる。
- ・自分の紹介したいことに合わせて、引用やキャッチコピー、あらすじ等を組み合わせることを伝える。

②考える

- 「ランドセルは海をこえて」のポップを作る。ICT
- ・前時にノートに書いた、感想をもとに作成することを伝える。
- ・第一時に使用した、ポップの見本のポップをスクリーンに提示し、書き方の工夫を取り入れられるようにする。

③学び合う

- 自分が作ったポップを基にグループで交流する。
- ・お互いのポップを見合い、よいと思った工夫や、自分との違いを見つけさせる。
- ・よいと思った工夫をノートに書かせる。

④まとめる

- 交流の中で、よいと思った工夫を全体で共有する。ICT
- ・児童が作ったポップをスクリーンに掲示しながら工夫を発表させ、全体で共有できるようにする。
- ・真似してみたいと思った工夫をさらにノートに書き加えさせる。

⑤振り返る

- 本時の学習を振り返る。
- ・めあてにそって、自分の言葉で振り返りをさせる。
- 次時の活動を知る。
- ・次時は、自分が選んだ本のポップを作ることを伝える。

5 / 6 時間目

本時の
目 標

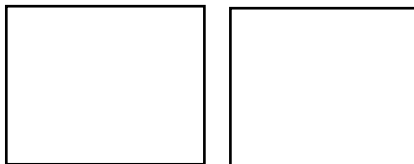
- ・自分が選んだ本のポップ作りに、よいポップ十か条を生かすことができる。

本時の
評 価

- ・自分が選んだ本のポップ作りに、よいポップ十か条を生かしている。

ふり
返り

ICT



- ・見本のポップをけいじし、工夫を取り入れられるようにする。
- ・児童の作成したポップをけいじし、工夫のよさを全体で共有する。

- 【よいポップ十か条】
- ① 題名
 - ② 作者・筆者名
 - ③ 出版ん社名
 - ④ 本のかん単なしようかい
 - ⑤ 引用
 - ⑥ 感想
 - ⑦ キャッチコピー
 - ⑧ イラスト
 - ⑨ 本の内よように関係のある紙の形
 - ⑩ 色

自分の選んだノンフィクションのポップを作ろう

めあて

事実にもとづいて書かれた本をしようかいしよう

授業改善のポイント



先哲の考えを手がかりにする

読んだ本の中で、心に残ったことや、感じたことに付箋を付けさせる。



知識や技能を習得し、活用する

よいポップ十か条や、見本のポップなど、今まで学んだことを提示し、自分のポップ作りに生かすようにする。

①つかむ

②考える

③学び合う

④まとめる

⑤振り返る

○本時のめあてを知る。ICT

- ・自分が選んだ本でポップを作ることを伝える。
- 学級で考えた「よいポップ十か条」を振り返る。
- ・必ず書かなければならないことと、そうでないことがあったことを確認する。
- ・見本のポップを提示しておく。

○読んだ感想をもとに、ポップ

- を作る。
- ・十分な時間を確保し、付箋を貼っていたところを中心に書くように伝える。
- ・必要な児童にはノートに下書きを書くよう伝える。

○ポップを友達と見せ合う。

- ・「よいポップ十か条」が生かされているかという視点を与える。
- ・お互いのポップを見合い、アドバイスをするよう伝える。
- ・誤字脱字がないか確認するよう伝える。

○ポップを見直し、完成させる。

- ・友達からのアドバイスを生かし、完成させるよう伝える。
- ・時間がある児童には、色やデザインなどの工夫も取り入れるよう伝える。

○本時の学習を振り返る。

- ・めあてにそって、自分の言葉で振り返りをさせる。
- 次時の活動を知る。
- ・次時は、作ったポップを使い、自分の読んだ本を紹介することを伝える。

6 / 6 時間目

本時の
目 標

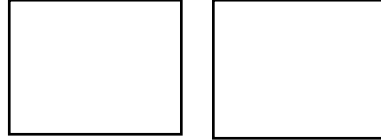
・読んだ本の内容をポップを使って紹介したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。

本時の
評 価

・読んだ本の内容をポップを使って紹介したり、考えたことなどを伝え合っている。

ふり
返り

ICT



・児童のポップをけいじしながら感想を発表させる。

- ①グループでポップと本をしようかいし合う。
- ②他のグループのポップを見に行く。
- ③全体で感想を発表する。

・ 題名 ・ 作者名
・ 考えたこと ・ 感想 など

【本時の流れ】
事実にもとづいて書かれた本をしようかいしよう
めあて
ポップを使って、自分が読んだノンフィクションの本を
しようかいしよう

授業改善のポイント



互いの考えを比較する

グループで紹介し合ったり、全体で紹介し合ったりする時間を設ける。



振り返って次につなげる

単元全体を振り返り、幅広く読書に親しむことができるように、ポップと本をセットにして校内に掲示しておく。

①つかむ

- 本時のめあてを知る。
 - ・めあてと本時の流れを板書し、活動の見通しをもたせる。
- 発表の仕方を確認する。
 - ・本の題名、作者名だけでなく、感想や考えたことなども発表するよう伝える。

②学び合う

- グループでポップを紹介し合う。
 - ・他の友達のポップや本の紹介を聞き、感想を伝え合う。
- 他のグループのポップを見に行く。
 - ・机の上にポップと本を置き、他のグループのポップを見に行くよう伝える。
 - ・ポップを読み、読んでみたいと思った本を選んでおくことを伝える。

④まとめる

- 友達のポップや本を読み合っって気付いたことを発表する。ICT
- ・ポップに書かれている内容に対しての感想や、発表を聞いて考えたことを発表させる。
- ・ICT 機器を活用し、ポップを掲示しながら発表をさせる。

⑤振り返る

- 単元のめあてを振り返り、学習を振り返る。
 - ・学習を振り返り、自分の言葉でノートに書くよう伝える。
 - ・ノンフィクションの面白さや様々なジャンルの本に触れることの大切さを伝える。

有馬スタイル（国語科 第4学年「事実にもとづいて書かれた本を紹介しよう」）